

「わく・すい展示会」を開催

技士会と東建が協賛

「わくわく・すいすい・Kids クラブ」中央水辺実行委員会（委員長・阿部彰A+A総合計画事務所代表取締役）が主催し、技士会と東建が協賛した「わく・すい展示会～わたしとぼくらの水辺マップ」が9月1日、中央区の内田洋行本社1階サロン内で開かれた。

5、6月に開いたクルージングによる見学会や8月のワークショップに参加した小学生が制作した成果を展示した。

身近に感じた水辺への思い 小学生が絵や模型で表現

この取組みは、地域とのかかわりが薄く、「ふるさと」を感じるようになってきている中央区の子どもに、水辺からの風景を見てもらい、ふるさとを意識するきっかけになってほしい、との思いでスタートした。小型船で日本橋川や亀島川、隅田川、神田川、朝潮運河などを巡るクルージング観察会「船から見るまち」「水辺探検隊」を3日間計9回にわたって開



催。参加した約200人の小中 学生・保護者・関係者は、ふだん見ることのできない橋の裏側などを見学し、橋の説明に耳を傾けた。ワークショップは、夏休み中に計5回開催した。当初は40人の参加を目標としていたが、夏休みであったため、応募者は延べ13人とどまった。参加した子どもたちは、それぞれが興味のあるテーマを選び、技士会「情報・広報グループ」が協力して清水建設㈱から派遣していただいた橋梁の専門家3人や、「日大土木女子の会」から参加いただいた、土木を学ぶ大学生2人らのサポートを受けながら、「水辺への思い」を絵にしたり、模型を作成したりした。

展示会当日は、突然、雨が降り出すなど、変わりやすい天候だったが、ワークショップの参加者などが来場。参加者は「上流から海までの水の流れを、物語にして絵で表現したり、作るうちに作品がどんどん立体的になったりと、子どもの発想力が面白い」と感想を語っていた。

「わくわく・すいすい・Kidsクラブ」は、「東京水の都フォーラム」との共催で、中央区文化事業助成対象事業となっている。

